

北欧の国フィンランドで生まれ、
世界10数か国語に翻訳されている
児童書の大ベストセラー・シリーズ、
ついに日本語版が刊行!

フーさん

シリーズ

名前
フーさん

職業

子どもを脅かすこと
あるいは、魔法使い、
手品師、それとも、
オバケ?

好きな飲み物
紅茶(灰色伯爵茶なら
言うことなし)

家族

天涯孤独(たぶん)

家
祖父のもっと前の代か
らの木造の小さな家

特徴

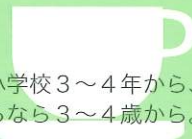
頭のとっぺんから足の
先まで黒づくめの衣装



ハンヌ・マケラ◎作
上山美保子◎訳

国書刊行会

まっ黒くろの姿をして、子どもみたいな話し方をする変なおじさん(年齢不詳、実はオバケ?)、フーさんがひきおこす騒動の数かず(そしてフーさんがとなえる呪文の数かず)。でも最後には不思議としみじみとしちゃうのです。



自分で読むのなら小学校3~4年から、
読み聞かせるなら3~4歳から。

A5判・上製ジャケット装
各巻平均180ページ
各巻定価1575円(税込)

(タイトルは変更になる場合があります)



〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 <http://www.kokusho.co.jp>
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427 e-mail:info@kokusho.co.jp

🌸お取り扱い書店🌸



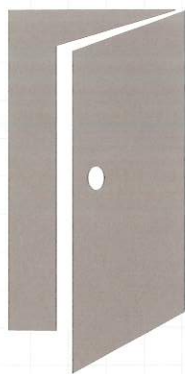
これまでたくさんの豊かで想像力をかきたてる童話・児童文学の名作を生みだしてきたフィンランドで、今の30~40代の誰もが、子どもの時に愛読した本としてまっさきに名前をあげ、そしていまなお多くの子どもたちに読まれ続けている、永遠のベストセラー、それが1973年に誕生した児童文学『フーさん』です。この『フーさん』、発表されるや、たちまちのうちに爆発的な人気を博し、翌年には続編『フーさんにお隣さんがやってきた』、さらにその次の年には『フーさん引越しをする』が発表されました。その後、フィンランドでは、舞台化されたほか、テレビ・アニメ化もされました。シリーズ最新刊は2006年に出た第6巻。各巻にマケラ本人による挿絵がついています。英語を初め世界10数か国語に翻訳されている大ベストセラーの待望の日本語版です。

ハンヌ・マケラ Hannu Mäkelä

1943年フィンランド・ヘルシンキ生まれ。作家・詩人。詩、小説、児童小説、絵本と作家としての活動は多岐にわたる。フィンランド国内で数多くの児童文学賞を受賞しているが、児童書だけではなく、1995年に『Mestari』でフィンランディア賞(フィンランド最高の文学賞)を受賞するなど、一般向けの文芸の世界でもおおいに活躍している。現代フィンランド文学界を代表する作家の一人。邦訳作品に『ぼくはちびパンダ』(徳間書店)がある。

上山美保子 うえやま みほこ

1966年、東京都生まれ。東海大学文学部北欧文学科卒。大学在学中、トウルク大学人文学部フィンランド語学科留学。現在、フィンランド技術庁Tekes勤務。フィンランド語翻訳のほか、都内でフィンランド語講師も勤める。



フーさん引っ越しをする

～フーさんの町暮らし～

その日はとつぜんやってきました。ある日のこと、フーさんの家に入り込んできた男たち。フーさんは、なにもできないまま、どこかへと連れ去られてしまいました。どうやら、町というところに連れてこられてしまったようです。町の家にはへんなものがたくさん。まず扉。一回閉めてしまうと簡単に開けることができません。それから水道。いきなり熱いお湯が出てきたりします。町にやってきたフーさんは、知らないことだらけです。森の家に住んでいるときにお友だちになった子どもたちとも離れ離れ。彼らとは、もう二度と会うことはできないのでしょうか？

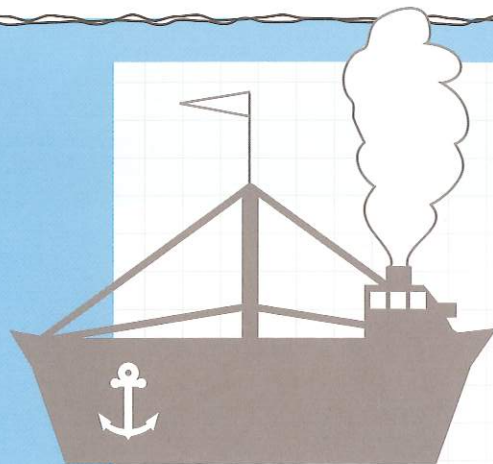
第3回配本 2008年1月刊行予定
ISBN978-4-336-04949-0

フーさんに お隣さんがやってきた

～フーさんと仲間たちの大冒険～

ある日のこと、フーさんは海の上でゆらゆら揺れている夢をみました。おかしいな。僕の家は森の中のはずなのに。でも、確かに船乗りの歌が聞こえてきます。な、なんと目の前に、とつじょ大きな船が現れました。孤独と静けさを愛するフーさんは抗議に出かけます。船の主の名前は、ピールバラ……二人の出会い是最悪です。実は、ピールバラ提督には、哀しい過去が。愛する女の人が連れ去られたまま戻ってこないというのです。その話を聞いて、フーさん一肌脱がなればと思います。でも、手がかりは？ 大丈夫。フーさんのこと。ちゃんと手がかりはあるようです。さあ、大冒険の始まりです。

第2回配本 2007年11月刊行予定
ISBN978-4-336-04948-3



フーさん

～フーさんの不思議な毎日～

フーさんは、街はずれの森の中にある小さな家に一人で気ままに暮らしています。でも、たまには仕事に行かないといけません。ある日、一大決心をして仕事に出かけることにしました。葉っぱが次々と落ちていく「病気の木」の治療をすることにしたのです。さて、巧くいくかな？ 久しぶりだからなんだかとてもどきどきするよ。さて仕事を始めてみると、いろいろな騒ぎが起こり始めます。でも仕事のおかげで、お友だちもでき、お茶にお呼ばれするようにもなりました。まあ、考えなければいけないことも増えてしまいましたけどね。でも、大丈夫。考えごとをするときは、いつも片手に「グレー伯爵ティー」がありますから。

第1回配本 2007年9月刊行予定
ISBN978-4-336-04947-6

